

あとえちくいせき
跡江地区遺跡

県営経営体育成基盤整備事業跡江地区

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2011

宮崎市教育委員会

序

本書は、跡江地区における農業基盤整備事業に伴い、平成17・18年度に宮崎市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書です。

跡江地区には生目古墳群史跡公園があり、一昨年には体験学習施設を備えた埋蔵文化財センター「生目の杜 遊古館」をオープンしました。また近接して、プロ野球のキャンプ等で利用される「生目の杜運動公園」もあり、当市における文化、スポーツ両面での拠点的な地域となっております。

同時に、一面に広がる水田地帯でもあり、我が県における基盤産業の一翼を担っている地域でもあります。

今回の発掘調査において、当地域が、古代から水田地帯として利用されていましたことがわかりました。現在の風景を眺めながら、はるかな昔の景観もこうであったかと、思いを馳せることもできます。同時に、生目古墳群をはじめとして、多くの遺跡がこの地域に集中するわけも、おぼろげながら、見えてくるような気がいたします。

文末になりましたが、調査にご理解いただき、御協力いただいた跡江地区的皆様、作業に従事していただいた発掘作業員の皆様に、心より御礼申し上げます。

平成23年3月

宮崎市教育委員会
教育長 二見 俊一

例　　言

1. 本書は県営経営体育成基盤整備事業跡江地区に伴い、宮崎市教育委員会が平成17・18年度に実施した跡江地区遺跡の発掘調査報告書である。

2. 現地調査は平成18年3月8日～3月24日および平成18年6月1日～8月18日の期間実施した。

3. 調査組織

調査主体　宮崎市教育委員会

（平成17年度）

調査総括　文化財課長　野田清孝

文化財係長　米良明信

調査事務　主任主事　松木勇道

調査担当　技　　師　竹中克繁

（平成18年度）

調査総括　文化財課長　野田清孝

主幹兼文化財係長　山田典嗣

調査事務　主任主事　鳥枝　誠

調査担当　主任技師　竹中克繁

技師補　石村友規

4. 掲載した図面の実測および現場写真の撮影は、竹中、石村が分担して行った。

5. 掲載した図面の製図、図版作成および遺物写真撮影は竹中が行った。

6. 自然科学分析は株式会社古環境研究所に委託した。第Ⅲ章は紙幅の関係により、その成果品から要旨を抜粋したものである。

7. 本書の執筆、編集は竹中が行った。

8. 本書の図で使用する方位記号はすべて真北を示す。

9. 出土遺物および掲載図面、写真等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

本文目次

第Ⅰ章 位置と環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3節 調査に至る経緯および当該地における埋蔵文化財の取り扱い	1
第Ⅱ章 発掘調査の成果	4
第Ⅲ章 自然科学分析	
第1節 テフラ分析	8
第2節 植物珪酸体(プラントオパール)分析	8

挿図目次

第1図 周辺遺跡地図	2
第2図 当該地における埋蔵文化財の取扱い	3
第3図 調査区平面図および調査区南壁土層断面図	5
第4図 足跡状遺構検出状況	6
第5図 出土遺物	7
第6図 土層柱状図	9
第7図 植物珪酸体分析結果	10

表目次

表1 出土遺物観察表	7
表2 テフラ検出分析結果	9
表3 屈折率測定結果	9
表4 植物珪酸体分析結果	10

写真図版目次

図版1~7 現地調査	12~14
図版8~10 出土遺物	15

第Ⅰ章 位置と環境

第1節 地理的環境

跡江地区遺跡は、宮崎平野南部を東流する大淀川の下流右岸に位置する。宮崎平野を取り囲む内陸丘陵地帯との境に位置し、シラス台地上に形成された古墳時代前期を中心とした大古墳群である生目古墳群の麓に広がる。

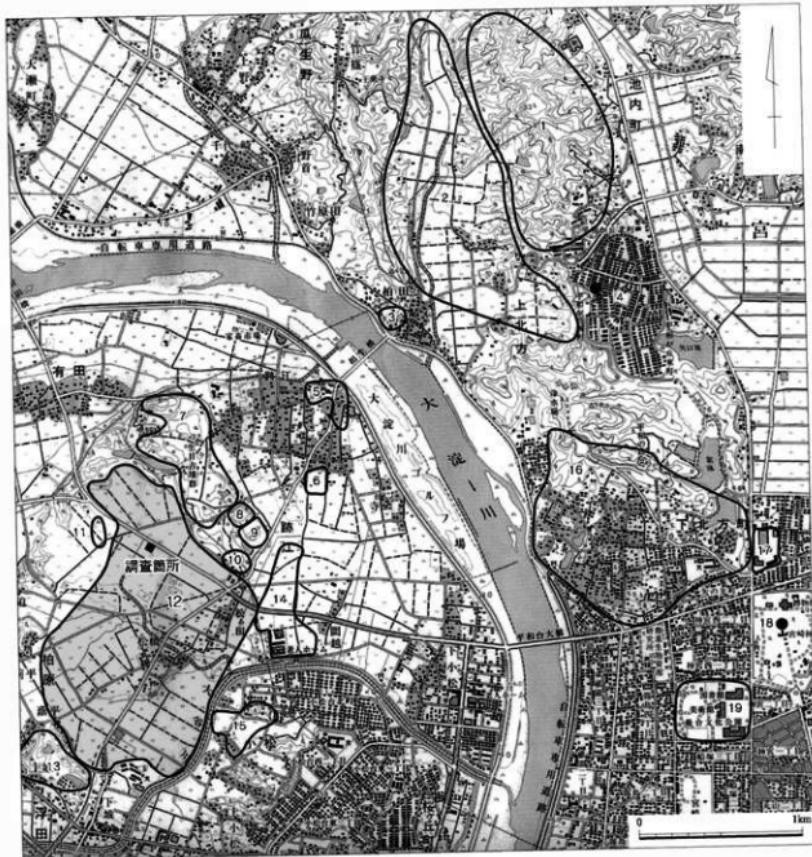
一帯は大淀川の後背湿地であり、同河川の氾濫に起因するシルト・粘土及び砂等の谷底低地堆積物で形成されており、跡江をはじめ、付近には浮田や有田、雀田、沖ノ田、井尻など、水や田地に関する地名が多く、現在も一面の水田地帯として利用されている。

第2節 歴史的環境

前述のとおり、当該地は古墳時代前期の大型前方後円墳3基を中心とした生目古墳群の眼下に広がる低地である。低地中の所々に島状に存在する微高地には、大屋敷遺跡や間越遺跡などの古墳時代集落が確認されている。他に生目横穴墓群など、古墳時代の遺跡の集中が顕著であるが、生目古墳群ののる跡江丘陵上には縄文時代早期の「跡江貝塚」や弥生時代中・後期の環濠集落「石の迫第2遺跡」なども存在し、また付近の丘陵上には石塚城や古城跡、跡江城など中世の山城も多く確認されている。

第3節 調査に至る経緯および当該地における埋蔵文化財の取扱い

宮崎市大字跡江において、平成18年度から農業基盤整備工事が行われている。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「跡江地区遺跡」となっており、過去、遺跡内を横断する県道の改良事業の際、宮崎県教育委員会により古代、中世の水田跡の調査が実施されている（井尻遺跡、雀田遺跡、沖ノ田遺跡）。宮崎県文化財課実施のトレンチによる確認調査、および宮崎市文化財課実施の検土杖による土層堆積の確認調査により、事業対象地の西半においては、ほぼ全面的に水田跡の存在する可能性が高いことが確認された。そのため、宮崎県中部農林振興局、宮崎県文化財課、宮崎市文化財課の3者で埋蔵文化財の取扱いについて協議を重ねた。事業箇所のほぼ全面において10～13世紀降灰のテフラ（霧島高原スコリア Kr-ThS）の存在することが確認されており、このテフラ層以下を遺構面として、事業箇所の各所において工事計画高と遺構面の遺存する高さとの検討を行った。結果として、一部の箇所を除き、工事掘削深と遺構面との間に10cm以上の保護層が確保できることから、現状保存とし、工事削平を免れ得ない1,400m²について、市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。



- | | | |
|------------------|------------|------------|
| 1: 宮崎城跡 | 2: 瓜生野横穴墓群 | 3: 柏田貝塚 |
| 4: 池内横穴墓群 | 5: 大屋敷遺跡 | 6: 堂原遺跡 |
| 7: 生目古墳群 | 8: 石ノ迫第2遺跡 | 9: 跡江城跡 |
| 10: 跡江貝塚 | 11: 深田遺跡 | 12: 跡江地区遺跡 |
| 13: 浮田照明院横穴・石塚城跡 | 16: 下北方遺跡群 | 14: 間越遺跡 |
| 15: 平岩遺跡 | 19: 船塚遺跡 | 17: 垣下遺跡 |
| 18: 船塚古墳 | | |

第1図 周辺遺跡地図(Scale: 1/30,000)

国土地理院発行1/25,000地形図「宮崎北部」改変



第2図 当該地における埋蔵文化財の取扱い(Scale:1/4,000)

第Ⅱ章 発掘調査の成果

調査箇所は現況、一面に水田が広がり、明確な地形的な差異はない。北方および北西方向は丘陵となっているが、調査箇所については、現況標高13m前後の低平な水田で、顕著な比高差はない。調査箇所の北に隣接して、主要地方道南俣宮崎線が東西に走っており、この道路の改良事業に伴い、平成11・12年度に宮崎県埋蔵文化財センターにより井尻遺跡、雀田遺跡、沖ノ田遺跡の調査が行われ、古代から中世にかけての水田跡が確認されている。

調査箇所は恒常に水の湧く水田での調査のため、調査区の四周に排水のためにサブトレーンチを設定した。土層堆積確認を兼ねるため、トレーニチは水田遺構の確認されることのないアカホヤ層（Ⅲ層 第Ⅲ章参照）を20cmほど掘り込む深さまで設定した。

第3図に調査区のセクション図を掲載した。堆積土中、第Ⅱ層に10～13世紀降灰のテフラ（霧島高原スコリア Kr-ThS 霧島火山起源）がまばらに認められ、Ⅱ層直下の第Ⅲ層は遺物をまばらに含有し、黒色、白色、橙色の粘土が縞状に折り重なり、水田耕作に伴う攪拌された土と判断された。

工事削平の及ぶのがⅢ層までであることから、発掘調査はⅣ層上面を検出するまでとし、人力による掘削、精査を繰返した。

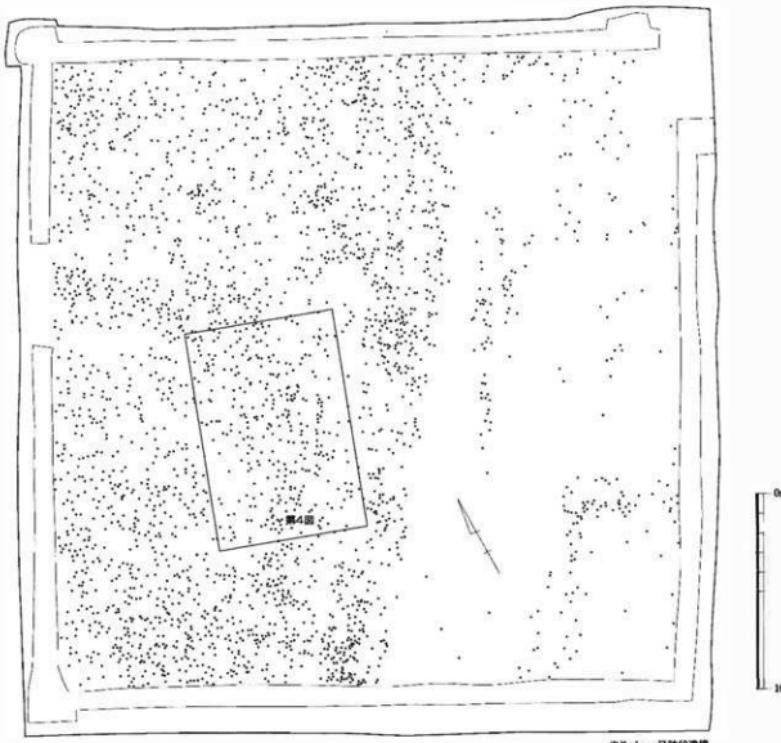
Ⅱ層中からはイネのプラントオパールが10,000個/gと極めて高密度で検出されている（第Ⅲ章参照）。Ⅱ層下のⅢ層上面において無数の足跡状遺構が確認でき、中には長25cm前後の人のものと思われるものや径10cm程度の家畜などの動物と思われるものもあったが、そのほとんどがⅡ層の土を埋土として持つことから、Ⅱ層中からの踏み込みであり、Ⅱ層に伴う遺構としてとらえるべきと判断される。Ⅱ層中及びⅢ層上面からは、東播系鉢や同安窯系青磁の破片が出土しているが、同時に近世陶磁片も出土している。水田耕作に伴うものであろう攪拌によって年代幅のある遺物が混ざり合っているが、Ⅱ層中に近世より新しい段階の遺物は見られなかったため、近世を下限として考えるべきであろう。

Ⅲ層中からはイネのプラントオパールが7,600個/gと高密度で検出されており（第Ⅲ章参照）、また土層観察でも層全体に恒常的な攪拌のあとが見られることから、水田耕作の行われていたことはほぼ間違いないと思われる。層中に遺物はほとんど見られなかつたが、先述のⅡ層で検出された東播系鉢や同安窯系青磁がこの層の形成年代を示す可能性がある。

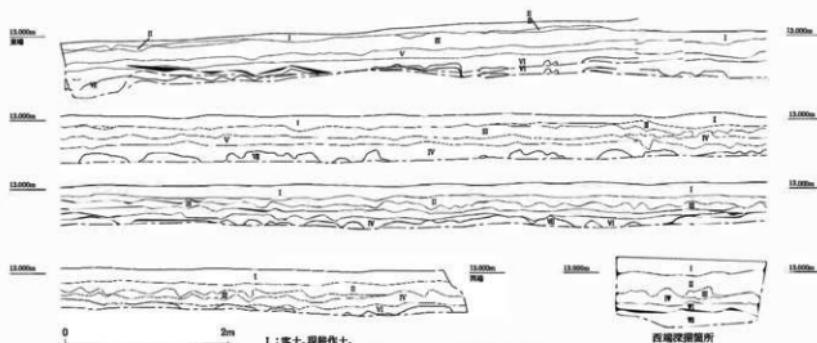
Ⅲ層下のⅣ層においても、イネのプラントオパールが10,000個/gと極めて高密度で検出されており、水田耕作の行われていた可能性が高いが、Ⅳ層上面においては畦畔や足跡状遺構などは検出されなかつた。

出土遺物

土器片、陶磁器片が十数点出土しているが、いずれも細片で摩滅が激しく、図化に耐えうる資料はごくわずかしかない。図示した3点はすべてⅡ層出土のものであり、いずれも反転復元による。



※ドット…足跡状造構



- I : 黒土。現耕作土。
- II : 黒褐色粘土。霧島高原スコリア(10~13世紀歴史)多量に含有。
- III : 黒褐色粘土。土質はIに近似するが、霧島高原スコリアを含有しない。
- IV : 増灰色粘土。粒子が粗く、中心よりが細く、鉄分をまばらに含有。
- V : 増灰色粘土。堅めて硬くなり、粘性が高い。黒色、白色、黒色の粘土を帶状に含有。
- VI : 増灰色粘土。土質等、IVに近似するが、やや明度が低い。
- VII : 明黄褐色土。堆山、アカホヤ土の二次堆積層。

西端便箋箇所

第3図 調査区平面図(III層検出時 Scale:1/250)
および調査区南壁土層断面図(Scale:1/60)